

国の動向について

国の動向

- (1) 原子力規制委員会の発足
平成24年9月19日 発足
- (2) 「原子力災害対策指針」の策定
平成24年12月3日 官報で公表
- (3) 「原子力災害対策指針」のポイント

- ① 原子力災害対策に係る基本的事項
【原子力災害の特徴、放射線被ばくの防護措置の基本的考え方】
- ② 原子力災害事前対策に係る事項
【EAL・OILの設定、PAZ・UPZの導入、モニタリング、被ばく医療体制】
- ③ 緊急事態応急対策に係る事項
【緊急時モニタリングの実施、EAL・OILに基づく適切な防護措置の実施】
- ④ 原子力災害中長期対策に係る事項
【健康・環境への影響の長期的な評価、除染措置の実施】

国の動向

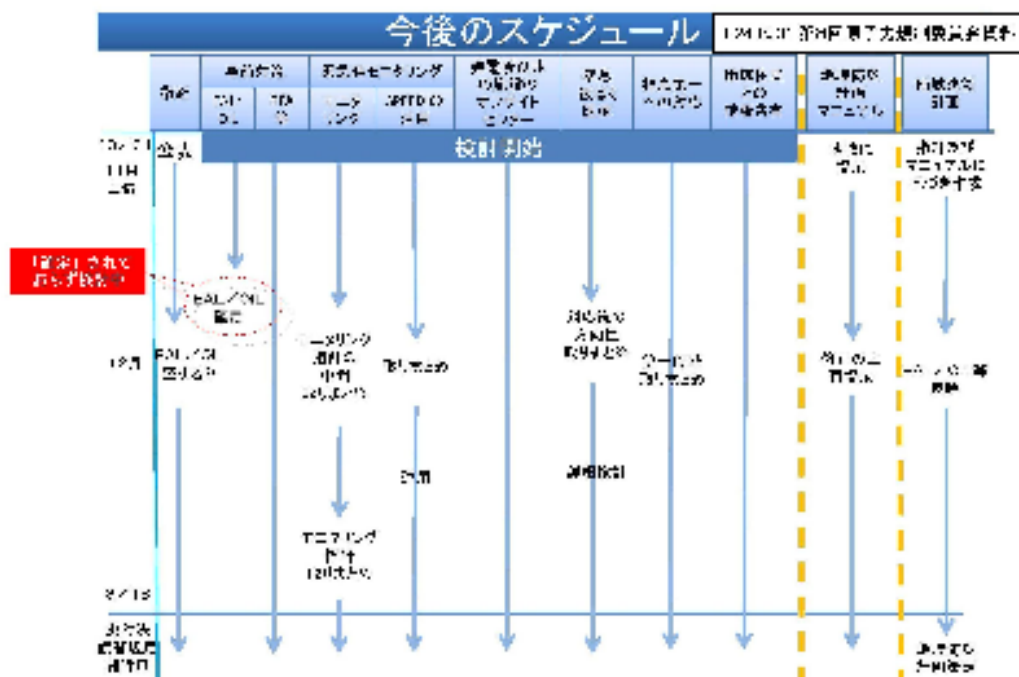
●(4)原子力災害対策指針における今後の検討事項

- ①原子力災害事前対策の今後の在り方 → 京都市に関連
【EAL・OIL、緊急事態区分の在り方、PPAの導入、一時退避ができる施設等】
- ②緊急時モニタリング等の今後の在り方 → 京都市に関連
【モニタリング計画の策定等の在り方、SPEEDIの活用方策】
- ③オフサイトセンターの今後の在り方
【実用炉以外のオフサイトセンター】
- ④緊急時被ばく医療の今後の在り方 → 京都市に関連
【緊急被ばく医療設備・資機材、関係医療機関の連携、安定ヨウ素剤の投与判断の基準、スクリーニングの技術的課題】
- ⑤東京電力福島第一原子力発電所への対応
【緊急時被ばく状況から現存被ばく状況・計画的被ばく状況の移行に関する考え方、除染・健康管理等の在り方、リスク評価を踏まえた原子力災害重点区域の在り方】
- ⑥地域住民との情報共有等の在り方 → 京都市に関連
【住民が必要とする情報について定期的な情報共有の場の設定】

3

国の動向

●(5)原子力災害対策指針の今後の検討事項スケジュール



4



拡散シミュレーション(MACCS2)

(1) 拡散シミュレーション結果の公表(MACCS2)

- 平成24年10月24日 原子力規制委員会が公表
 - 国際原子力機関(IAEA)の避難判断基準である「7日間で100ミリシーベルトの被ばく」に達する地点
- 平成24年12月13日 総点検による結果の再公表
 - 気象データの入力、計算計数の不整合を修正

京都市

- 大飯原発から拡散予測の最長地点は、『南32.2km』
 - ⇒南32.2km地点は、「右京区 京北上弓削町 上川行政区」(山間部、居住者なし)
- データの修正により、最長地点は、『南32.2km』⇒「**南32.5km**」に修正
 - ⇒南32.5km地点も、**上川行政区の山間部で居住者なし**

5



拡散シミュレーション(MACCS2)

●(2) 拡散シミュレーションの概要

目的

あくまでも原子力発電所の事故により放出される「**放射性物質の量**」や「**放出継続時間**」などを**仮定**し、周辺地域における放射性物質の拡散の仕方を推定するものである。

拡散シミュレーションの精度・信頼性

- ✓精度や信頼性に限界がある

『地形情報を考慮していない』

『気象条件：放出地点におけるある一方向に継続的に拡散すると仮定』

留意すべき点

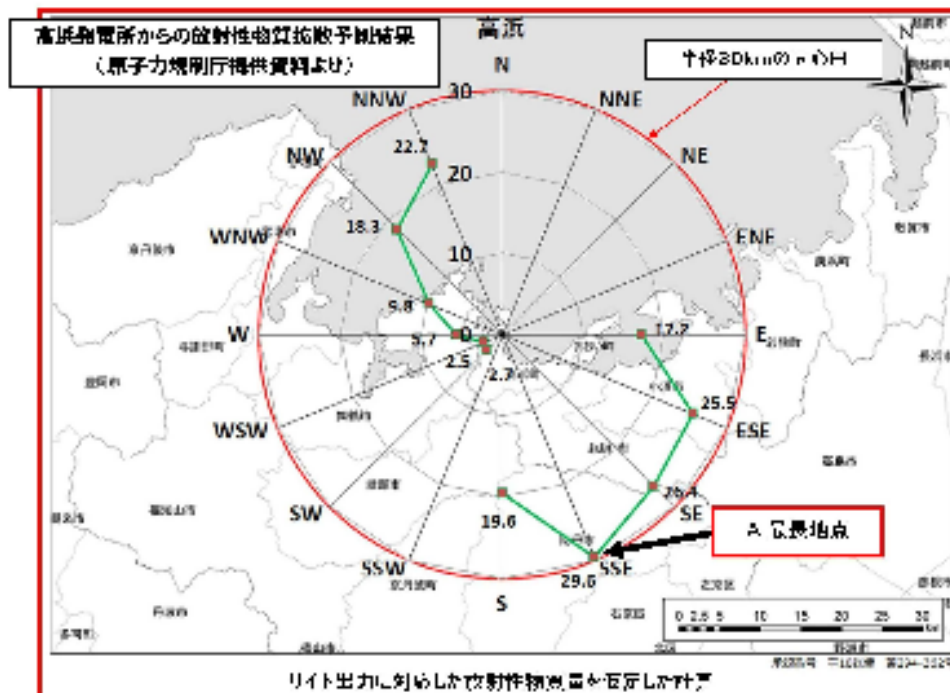
- ✓目安として参考にするべきデータであることに留意が必要

6



拡散シミュレーション(MACCS2)

● 拡散シミュレーションの結果(高浜発電所)

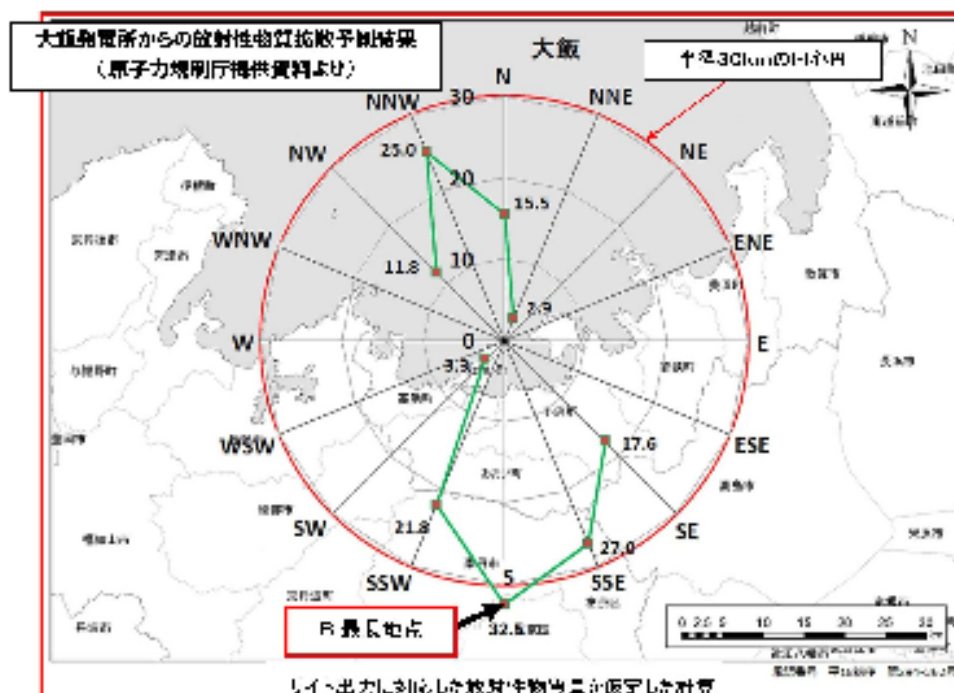


7



拡散シミュレーション(MACCS2)

● 拡散シミュレーションの結果(大飯発電所)

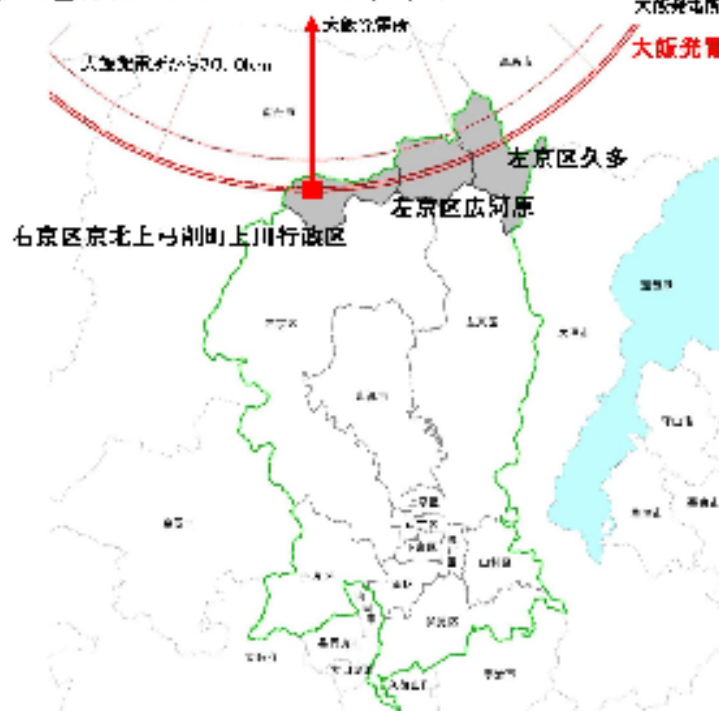


8



天信譽出西於5.3% 2k03

大飯発電所から32.5km



拡散シミュレーション(MACCS2)

●大飯発電所から32.5km地点及び周辺の状況

